

コロナ感染症から子どもと教育を守ろう！(13)

新型コロナ感染症に関する通知などの情報や、府高教のとりくみ、現場の声をお伝えします

みんなの声で教育予算を拡充させよう！

政府、補正予算(二次)を閣議決定(5/27)、世論が「できない」を変えさせた！

5月27日、政府は、2次補正予算案31兆円を閣議決定しました。全額を国の借金である国債でまかない、医療や雇用、中小業者への支援を手厚くするとしています。世論と国会論戦におかれて、医療支援、家賃支援、雇用調整助成金の上限額引き上げなど拡充策が盛り込まれたことは大きな前進であり、国民の声が政治を動かした結果です。

学校教育関連では、「教員・学習支援員などの追加配置 [318 億円]」、「感染症対策・学習保障など [421 億円]」、「光ファイバーの整備推進 [502 億円]」などが計上され、保護者や全教など教職員組合の運動を反映した一定の前進の面もありますが、不十分な点を多く残しています。たとえば、教員の加配が打ち出されてい

ますが、全国でわずか3100人。全国に小中学校3万校あり、9割の学校には加配がない計算になります。大学生等に対する支援が盛り込まれているものの、対象者がかなり限定されています。多くの大学生の要求である「学費一律半減」など、コロナ禍での学びと生活を支える支援が必要です。

「えがお署名」を広めよう

全教・府高教は、2021年度の政府予算に向けた文科省概算要求に対する請願署名に取り組んでいます。少人数学級、教職員増、教育費の軽減など教育予算増の世論が高まっています。署名運動を全国の学校職場、地域に広げ、文科省に届けましょう。

※署名用紙は各職場に送付しています。

VOICE 学校教育はだれのためにあるのか？

9月入学を求める署名を始めた高校生。彼らは、「学校生活をまっとうしたい。学校行事がなくなってしまう。友達と過ごす時間が失われる。入試の準備ができず地域格差や経済格差がうまれる。9月入学にすれば、問題を少しでも解消できるのではないか」と訴えていて、はっとさせられました。「教育の主体は自分たちにある。そして教育の機会が平等であるべき」という、当たり前のことを私たちに突きつけたのです。その後「今すぐ9月入学を」と強引に結論をだそうとする大

人たちが出てきました。彼らは9月入学の理由として「グローバル化に対応するため」などと言っていますが、この人たちにとって教育はやはり「人材育成」でしかなく、今ある格差の解消については無関心なのだと感じます。「教育の主役は誰なのか」この点を中心に据えたいうえで、議論されなければなりません。

(中河内支部 Uさん)



[これまでのNEWSはコチラ] <http://www.fukokyo.org/topics/1722>

[お問い合わせ]

[加入はコチラ]



教育予算増に向けて！
「えがお署名」にご協力を！



ひとりひとりの声は小さい…
だからみんなで！
あなたも府高教へ！